

學友



9
2003.VOL.9

発行日 平成15年3月7日
発行 福島県立農業短期大学校同窓会
発行責任者 会長 小沢 充博
事務局 福島県西白河郡矢吹町一本木446
電話 0246-42-4111
FAX 0246-44-4553
http://www.aif.prof.fukushima.jp/tandai/tandai1.htm



第3回同窓会親善球技大会開催!!



	県北・中通	会津
	県中・県南	2-11 7-12
県北・中通		
県中・県南	11-2	6-2
会津	12-7	2-6

大学校創立十五周年を迎えて

同窓会長

小沢 充博



同窓会報「學友」大学校創立十五周年記念号の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。会員の皆様方におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また関係各位、大学校職員の皆様には、本誌発行にあたりご協力いただきまして厚く御礼申し上げます。

本校は、昭和六十三年四月、当時県内三カ所にありました農業教育施設の統合に合わせ、矢吹町に「県立農業短期大学校」として開校して以来、十五年が経過しました。

その間、輩出されました卒業生は八〇〇名を超え、多方面で活躍する皆さんの様子を伺い知る場面が多くなりました。そして、毎年入校式の満開の桜並木をくぐるたびに、十五年の重みを感じています。

同窓会としましては、これまで名簿の整理、会報の発行、五周年、十周年各記念誌発行、記念事業の開催、記念植樹等を行い、大学校との連携を図ってきました。また、会員同士の交流を深めようと企画したスポーツ交流会も三回を数え、各期生の同級会開催時の後押しも含め、同窓会が世代を超えた会員間の情報交換の橋渡しになればと考えています。

また、会員の中で農短学生の農家留学研修の受け入れ体制を整えることにより、農家生活体験の枠を超えて、農短大の先輩、後輩としての世代間交流が実現し、その中で互いに農業に対しての知見を深めることができるものと思います。

これらのことを含め、これからの同窓会活動は、皆様にご協力いただきました昨年のアンケート結果を踏まえ、より一層会員相互の交流が密になりますように検討してまいります。

おわりに、会員の皆様のご健勝と、関係各位の本会へのより一層のご理解とご協力をお願いいたします。よろしくお願いいたします。



大学校創立十五周年を迎えて

校長 末永 弘

同窓生の皆様方には、益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。又、同窓会からは本校運営に物心両面でご支援頂いておりますことに改めて御礼申し上げます。

さて、本校も昭和六十三年四月に開校して以来、十五年が経過しました。今回、第十四期生が学会を巣立ちましたので、これまでに本科八百三十七名、研究科七十二名が卒業され、それぞれ第一線で活躍されておられますことは、本校としても大変うれしく思っております。

振り返ってみますと、創立当初は学校としての形を整えるため、学生と教職員が一体となって苦勞されながら現在の基礎を築いて頂いたところであります。

そして平成二年には研究科が発足し、本県唯一の農業担い手育成教育研修施設としての形態が整ったところであります。当時は入学希望者が定員を大きく上回る状況も見られ、矢吹の町に活気がみなぎっていた時代でもありました。

近年は、少子化傾向の中で高校卒業者も減少し、本校への入学希望者も減少傾向にあります。しかし、二十一世紀を迎え、農業が改めて見直されつつある中で、学生達は多様化する消費者ニーズに対応できるような環境に配慮した農業や資源循環型農業等、新たな農業の担い手を目指し勉学に励んでおります。

一昨年の七月には秋篠宮ご夫妻が本校

され、大学校の様子や学生の実習の様子をつぶさに見て頂くとともに、学生達と親しくお話しして頂く機会に恵まれました。また、昨年はF.T.V.「ときめきうつくしま」で、本校学生の勇姿が県民に広く紹介されました。更に、今年元旦の新聞でも本校学生の様子を取り上げて頂くなど、県民に広くPRしているところであり、学生達は農業短大生であることを誇りに先輩達の伝統を受け継ぎ、日夜奮闘しております。

十五年という節目の年を機に、更に大学校を発展させるため職員一同努力していくつもりであり、同窓生の皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

特に、実践力を備えた人材を輩出するために、皆様方が経験されたように農家研修が重要であります。最近では受け入れ農家の依頼に苦勞している状況でありますので、同窓生の皆様方が学生の研修を受け入れて頂けるようになることを期待しております。

また、樺隆祭や学科別同窓会等で学生や教職員との交流を図り、大学校との結びつきを強められますことを願っております。

大学校は皆様方の母校であり、ふるさとであります。いつでも気軽に立ち寄って頂き、後輩達を激励していただくとともに、母校の発展のため今後ともご協力、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

歴代同窓会担当職員より



みなさん
お元気ですか？

県庁畜産課 福沢 猛

月日の流れるのは早いもので、短大から現在の職場に転勤して4年の歳月がたとうとしています。

正直忙しい職場ですが、元気でガンバります。みんなはどうか？

人間忙しい時ほど時間を有効に使う気持ちになるものなのか、新しい事を2つ始めました。

1番目は小学生の息子に乘せられて始めたスノーボード。最初の曲がらない、止まらない感覚が新鮮で、いつの間にか息子より夢中になっている自分がいました。

2番目はライダー（バイク）への復活です。まだ、近場の日帰りツーリング程度（子供と一緒に）ですが、いつかまた旅人に戻るぞと決心している今日この頃です。家庭に仕事に遊びに悔いを残さぬよう、その瞬間を楽しもうと思っております（なかなか出来ないけど）。

とりとめのない事を書きましたが、また遇える日を楽しみにしています。みんなも元気でがんばって下さい。

お世話になりました

農学部(教務管理) 氏家 隆



局員として平成13年度の1年間（おそらく最長記録だと思います）務めさせていただきましたが、この間、理事をはじめ支部役員、多くの同窓生の方にお世話になりましたこと、この場をお借り致しまして御礼申し上げます。

わずかな在職期間だったので、皆様のお役に立つような働きは出来ませんでした。この間、多くの同窓生が県内外・多方面で御活躍なさっている姿を総会や会報編集作業時に垣間見ることができ、個人的には大きな励みとなりました。

年齢を重ね発言力を増してきた皆様の今後益々のご活躍を期待いたしております。

県庁農業経営指導課 菊地 幹之



たぶん、この号が配布されるのは卒業式だろうと思います。卒業おめでとうございませう。昨年転勤となりましたが、業務の関係で大学校には何度か行ってはいるのですが、今度の卒業生が離れるといよいよ見知った顔がいなくなります。

今年は担当が災害などであったため、バタバタとしながらあっと言う間に過ぎました。卒業生の中でも雷や台風などの被害を被った方もいると思います。

今は農業に限らず、ちょうど風がキツイ時ですが、季節は巡ります。その風を掴んで活躍されることを期待しています。

会員近況報告

— 県外で活躍する同窓生 —



1期生
内田 真一

同窓生の皆様、新年明けましておめでとございます。元気で活躍のことと存じます。さて、自分は平成三年に農業短大研究科を卒業後、仕事の関係で地元福島を飛び出し、最初は青森県で三年間、次に沖縄県で七年間過ごし、そして今は、鉄道伝来と日2人ロケット打ち上げで有名な鹿児島県の種子島に住んでおります。短大卒業から十年以上が過ぎ、時の速さを感じるとともに、ここ数年里帰りもしておらず、古里もだいぶ変わっただろうと想像している次第です。

自分が今やっている仕事の内容は、さとうきびの原種種苗生産業務で、さとうきびと言くと福島ではあまりな

じみがありませんが種子島を北限とする鹿児島以南では主要な農産物であり、特に産量の無い多くの離島では水田のようにさとうきび畑が多く見られます。これらの需要に応えられる様植え付けから収穫まで日々努力している毎日です。また、南国の農業では東北と違った珍しいものが多いですが、例えば種子島では唐イモのブランド化の動きがあります。今でも唐イモは有名ですが、品質的に体系化できれば種子島の唐イモは全国で通用するでしょう。福島でもいろいろ動きがあると思いますが、その地域の特徴を生かした農業の発展を期待します。

送られてきた同窓会の会報を見ると見知った顔が多く確認できて、懐かしさと同時に年を取ったものだと苦笑してしまいました。短大時代はもう忘れていたことも多いですが、やはり青春の一コマとして大事にしたいですね。最近では田舎暮らしに飽きて都会に住みたいと思っている今日この頃ですが、いつの日か同窓会に参加したいと思います。それでは皆様、今年もがんばりましょう。

準会員に聞く!! — おびたが福島に来た理由 —



園芸学科1年
宮田 健介
(愛知県名古屋出身)

寮生活では友達ができるかどうか、というのが一番不安でした。同じ高校の友達や先輩がいるわけではないので、入学したばかりの頃は部屋に閉じこもりがちだったのですが、他の部屋に遊びに行くようになると友達もでき、先輩とも親しくしてもらえるようになりました。入学当時は軽くホームシックになりましたが、今ではこの学校がとても楽しいものになりました。福島に来て本当に良かったと思っています。



「農短」
農産学科1年
松岡 民江
(大阪府枚方市出身)

時間が経つのは早いもので、農短に入ってから十カ月になりました。農短に入ってから色々なことを体験しました。印象に残っていることは夏の暑い日に同じ学科の人達と草抜きをしたことや、ドロンゴトライアスロンで田んぼの中を走りまわったことです。九月の県外研修で東京アイズテラランドや大田市場に行ったことも印象に残っています。大田市場では花のセリを生で見ることができて勉強になりました。初めての文化祭型で受付をやっていた、おじいさんやおばあさんが多いと思いました。農業大学校なので農産物を売るんだなと改めて感じました。冬の期間に入り大量の雪があり実習があまりできません。でも今は先生から色々なことを教わって卒業生ががんばっています。初めて自分で作物を栽培しているの、納得がいくような作物ができたらいなと思います。

私が福島に来てもうすぐ一年がたとうとしています。果樹の勉強がしたいと思い、こんなに遠くまで来てしまいました。初めは慣れないことに戸惑うことが多かったですが、入学試験の面接では、言葉のイントネーションが違うことと、訛りがあることで質問が聞き取りづらく、とても苦労しました。また、時間と費用がかかるので、なかなか実家に帰れないというのも悩みのタネです。

集

から 15年



。こんなところ～



バイパス道路

前山牧草地の中央にバイパス道路が通りました。



トラクター運転練習コース

かつて砂利敷だったコースですが、平成7年度に舗装整備されました。



秋篠宮ご夫妻来校（平成13年6月）

学生たちの実習の様子を見学され、学生たちを激励されました。



〈特

あれが



~変わりました



福島県農産加工技術センター 「うつくしまアグリ工房」

平成10年10月オープン。
県産農産物を利用した加工品の研究開発、農産加工研修等に活用されています。



JR矢吹駅 JR矢吹駅 西口

平成7年10月に近代的な駅舎に生まれ変わりました。



あぶくま高原自動車道

平成13年うつくしま未来博開催に伴い、矢吹I.C.～玉川間が
平成14年6月には、矢吹I.C.～福島空港間が開通！



JR矢吹駅 東口

矢吹駅のリニューアルに伴い、
東口とその周辺も整備されました。



大学の新しい試み

炭 焼 き

農学専攻長

佐藤 紀男

二十世紀は、科学技術の進歩等により物質的な豊かさを実現できましたが、同時に地球環境の破壊という大きな代償を払いました。これ以上の環境破壊は将来における人類の生存を危うくするものであり、環境を守り、緑の地球を後の世代に引き継いでゆくことが、二十一世紀を生きる私たち全員に課せられた責務です。

農業分野においても「環境」が最重要課題の一つであり、「持続的発展が可能な循環型農業の実践」が望まれているところですが、当然、本校においても環境教育に力を入れておりますが、学生にとっては書をつかむような話でもあり、理解が進みにくいという現実がありました。

環境や循環型農業の理解を深めるためには、実体験が不可欠であるとの考えから、昨年、環境教育の生きた教材にするために「炭がま」が作られました。プロの指導のもとに、学生、職員が一致協力して製作にあたり、六月三日に八田規模の「炭がま」が完成し、火入

れ式が行われました(写真)。

炭の原料は、松食い虫被害の伐倒木、竹、果樹の剪定枝などで、特に校内に野積みされていた伐倒木を処理できることは環境美化の面からも評価できます。焼き上がった炭は土壌改良や水質浄化に使用予定ですが、松炭は火力が強く、鍛冶炭に最適ということで刀鍛冶屋さんに販売もしています。また、木酢液も採取しており、卒業論文の有機低炭素栽培などへの利用が計画されています。

「捨てればゴミ、使えば資源」を身をもって体験できる「炭がま」は、将来に渡って環境教育の中核施設になることが期待されます。



大学の新しい試み

直 売 所

園芸専攻長

吉岡 邦雄

卒業生の方で直売所を開いている方や在学中に直売を体験した方がいらっしやるでしょう。しかし、在校生や現在の職員にとつての直売所は「新しい試み」でした。とにかく始まり、問題があれば、その都度解決していこうという「走りながら考える」コンセプトでスタートしました。チラシを町内に配布し、校門のわきに看板を設置し、グラウンドわきのログハウス前に直売所を整備し、準備万端(?)で、十月から十一月の毎週木曜日の午前十一時から十二時という日程で始まりました。

十月三日は、初めての直売でもあり、客足が心配されました。しかし、十一時の販売開始時には五十人以上の人が集まり、販売が始まるとホウレンソウは一分もたないうちに売り切れてしまい、米、ブドウ、バラ、ダイコンも飛ぶような売れ行きでした。来客数は百十二名に達し、我先にと押し寄せる消費者の恐ろしいまでの購買意欲に学生たちは圧倒され続けました。二回目、三回目の直売も、相変わらず消費者バ

ワーに押しまくられる販売が続きましたが、優秀な本校の学生は次第に段取りも良くなり、押し寄せる消費者にも十分対応できるまでになりました。

直売を七回行い、来客者の総数は四百七十二名に達しました。学生たちは、品目により売れ行きが異なる理由、顧客を覚えてもらうことの大切さ、直売のメリット、売れ行きを良くする販売方法などを自ら考え、直売で得たものは予想以上に大きなものがありました。最後に、看板の製作、直売所の整備やレイアウト、直売所の運営に協力いただいた方々に心よりお礼申し上げます。



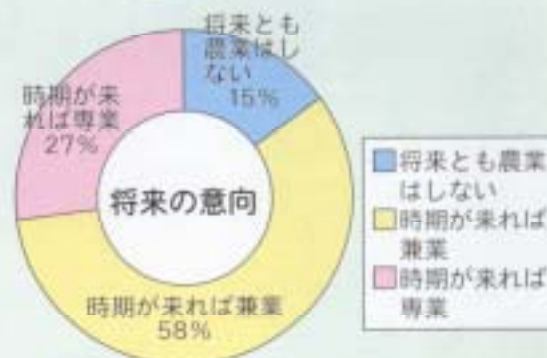
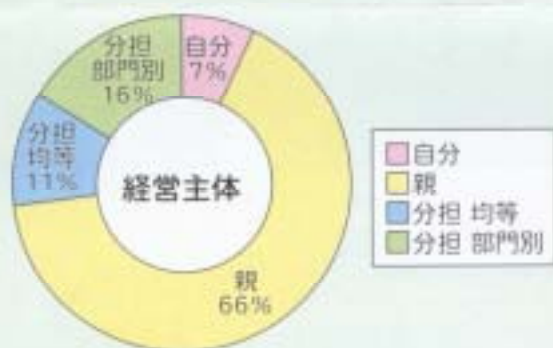
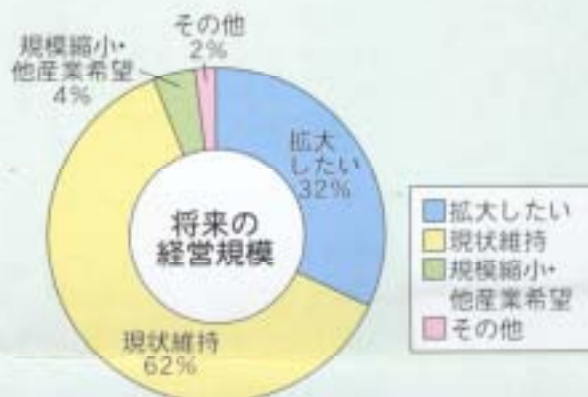
同窓会員の動向・意向調査結果報告

会員の皆様には、アンケートへのご協力ありがとうございました。

【現状と将来の意向】

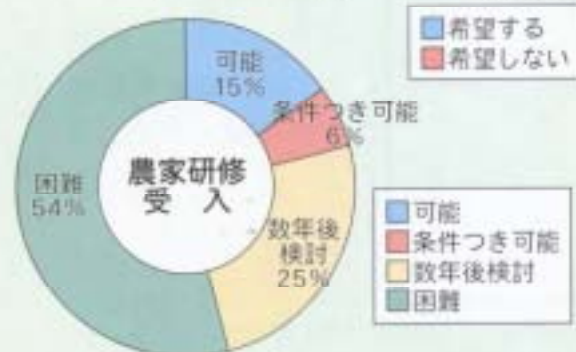
現在の経営主体は親であるとの回答が多く、これは年齢的に親がまだ若いためと思われます。

将来の意向としては経営規模を現状維持または拡大したい、また他産業に就職している方でも時期が来れば農業に従事したいという回答が多かったです。



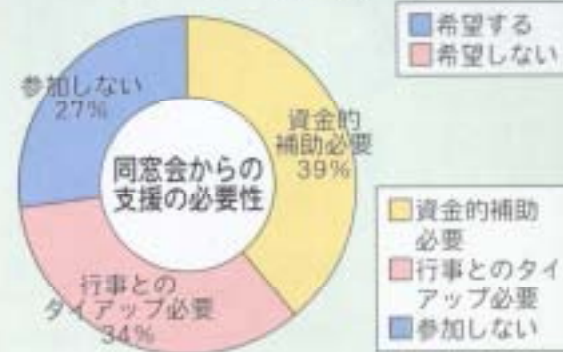
【卒業後の農業短大との関係】

各行事や研修への参加については、参加したくても仕事や子育てで時間が取れないという回答が目立ちました。



【同窓会活動について】

同期会への同窓会からの支援の必要性については資金的補助があれば、行事とのタイアップがあれば、という回答が多く、今後の検討が必要であると思われます。



掲 示 板

十一年ぶりの同級会

昨年十一月二十三日
に第二期生の同級会が
「ホテル日活」にて卒
業以来初めて行われ、
懐かしい面々が顔をそ
ろえました。また、私
たちが在学中にお世話
になり、再度短大で教
鞭をとられている佐藤
紀男先生、高良七先生、
そしてわれらがアイド
ル小針さんの御三名に
も御出席を賜りました。
今回の同級会は、一
昨年不慮の交通事故で
他界した志賀和博君の
弔いの意味もあり、生
前、宴会の場が大好き
だった志賀君がいるか
のような盛り上がりで
した。会場ではお互い
の近況報告をしたり、
短大の思い出話をした
り、時間を忘れて語り
合いました。



一期生 小松 良雄
期的に開催できれば良
いと思っております。
今回は岩崎貴幸君が忙
しい農作業の合間を
縫って、出欠の確認や
ホテルの手配、記念写
真撮影などの準備を先
頭にたつて進めてくれ
ました。大変感謝いた
します。
最後になりますが、
同級会では毎年スポー
ツ大会などを開催して
おります。ぜひともた
くさんの御参加をお待
ちしております。

各期別卒業生の進路について (10期～14期生)

●本 科●

期別	卒業 年度	就 農			大学校等 実習助手	公務員	農協および 農業団体	農業関 連企業	他産業	進学	その他	計
		自家	法人	研修								
10	10	9	6	4	2	1	7	17	3	5		54
11	11	8	8	4	4	1	6	10	9	8	1	59
12	12	9	3	6	5	2	7	11	13	4		60
13	13	9	3	1	3		7	15	8	2	6	54
14	14	5	1	5		2	3	13	2	4	15	50
合計人数		39	21	19	14	6	30	64	35	23	26	277

●研究科●

期別	卒業 年度	就 農			大学校等 実習助手	公務員	農協および 農業団体	農業関 連企業	他産業	計
		自家	法人	研修						
10	11		1				1		1	3
11	12		1		1		1		2	5
12	13				1			1		2
13	14			1		1				2
合計人数			2	1	2	1	2	1	3	12

同窓会会長賞受賞者

- ◆星 忠邦 (園芸学科) 下郷町
◆吉田 真治 (園芸学科) 須賀川市

結婚おめでとう!

- 三期生 小野 克彦
 - 二期生 星 藤哉
 - 一期生 大沼 文子(旧姓 伊藤)
 - 一期生 長谷川 健一
 - 二期生 橋本 務
 - 二期生 美穂子(旧姓 鈴木)
 - 二期生 奈良橋 悟
- (事務局で確認した方々を掲載しております)

お悔やみ申し上げます

十一期生(平成十二年卒・農産学科)
折笠 樹紀さん(いわき市)は平成十四年
十二月二十三日、ご逝去されました。ご冥福を
お祈り申し上げます。

神奈川大学環境学

国の指導に基づき、昭和四十八年に農業短大
敷地内に建設された残留性有機塩素系農薬(D
DT等)の漏えい問題を巧みさまよは、速やかに撤
り上げて適切に保管することを決定しました。
同窓会員の皆様にはご心配をおかけしまし
たが、汚染も限定されておりましたのでご安心くだ
さい。

編集後記

大学校創立十五周年記念特集号ということ
で、いつもよりページを増やしましたが内容
についてはいかがだったでしょうか。ぜひご
意見をお聞かせください。お忙しい中、寄稿
して下さった方々にはこの場を借りて御礼
申し上げます。
(編集委員一同)